

【午前】

50問のバランスは以下ようになっていました。法務分野はここ最近では6問出題されていましたが、今回は1問減少しており、その他分野が1問増えています。

問1～8：情報セキュリティ管理(基礎理念、各種ガイドラインなど)

問9～23：各種脅威とその対策

問24～30：情報セキュリティ技術(暗号化、PKI、実装技術など)

問31～35：法務

問36～50：その他の分野

問1～8の部分では、従来からよく用いられていたJIS Q 27000シリーズに加え、JIS Q 27017(クラウド関連)やJIS Q 27014(ガバナンス)も取り上げられていました。また、IPA“中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン”に関する出題が多くなっています。押さえておくべきガイドラインの範囲が広がった印象もあり、経営者の視点をもたない若年層の受験者にとっては難しく感じられたでしょう。

問9以降の部分では、WannaCryなど、FEなどのベンダ向け区分でもあまり出題されていない用語が用いられた問題も散見され、移り変わりの早い情報セキュリティ知識をしっかりとキャッチアップしていこうという意図がうかがえます。その他分野では監査に関する問題がやや難易度が高いですが、それ以外は比較的平易な問題が多く、全体として解きやすい印象です。

過去の情報処理試験からの流用改変と判断できるものは50問中26問程度で、やや多めです。SG試験からの流用はまだ数問で、FE試験からの流用が多くなっています。難易度については、新規出題部分の難易度が高い反面、定番部分は平易に答えられるものが多いことで相殺され、前回と同様になっていると評価します。

【午後】

午後問題の内容は次のようなものでした。運用的な観点だけでなく技術的な知識を求める設問も多く含まれており、総合バランスのとれた問題構成になっています。

問1：インターネットを利用した振込業務の情報セキュリティリスク

ネットバンキング業務におけるマルウェアやなりすましの脅威と対策を考察する。

問2：リスク対応策の検討

ECサイトを題材に、利用者IDの管理やデータバックアップについて検討する。

問3：標的型メール攻撃への対応訓練

不審メールの対応手順と、その社内啓蒙の手法について考察する。

問2、問3は10ページ前後で例年並みですが、問1は合計14ページとかなり多めになっています。提示される情報量も複雑で多く、この問1に相当の時間を費やした受験者も多いのではと推測します。

また、各問でそれぞれ技術的な理解がないと自信をもって答えられない設問が、やや多い印象です(トークンとワンタイムパスワード、中間者攻撃の一つであるMITB、ドメインによるフィルタリングなど)。

以上を考慮し、全体的な難易度は「やや難(長文読解に慣れていない人にとっては難)」と評価します。

【予想配点】

[午前]

問 1～50 : 各 2 点

[午後]

問 1 : 34 点

設問 1 3 点

設問 2 3 点

設問 3 (1) a … 3 点

(2) b … 4 点

設問 4 (1) 3 点

(2) 3 点

設問 5 (1) 3 点

(2) c … 3 点

(3) d … 3 点

(4) e … 3 点

(5) f … 3 点

問 2 : 34 点

設問 1 (1) 4 点

(2) 3 点

(3) a, b … 各 3 点×2

(4) 完答 3 点

(5) 完答 3 点

(6) c～f … 各 3 点×4

(7) g … 3 点

問 3 : 34 点

設問 1 4 点

設問 2 (1) 4 点

(2) a, b … 各 3 点×2

設問 3 4 点

設問 4 (1) 4 点

(2) 4 点

(3) c, d … 各 4 点×2

(午後試験の合計は上限を 100 点とする)

以上

この講評の著作権は TAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Copyrights by TAC Co.,Ltd.2018